

朝倉市復興計画（案）に関する住民説明会 議事録（朝倉地域）

日時：平成 30 年 2 月 18 日（日）17:00～18:40
場所：朝倉地域生涯学習センター

出席者：副市長、全部課長、復興計画調整官、総合政策課職員

参加者：住民 241 名（朝倉 219 名、その他 22 名）

朝倉市復興計画策定委員会委員長

林野庁（九州森林管理局）

福岡県（朝倉農林事務所、朝倉県土整備事務所災害事業センター）

- 1 開会
- 2 市長挨拶（代理：副市長）
- 3 朝倉市復興計画策定委員会 委員長挨拶（三谷委員長）
- 4 朝倉市復興計画（案）について（総合政策課長）
 - ・平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害の概要及び被害の状況
 - ・復興計画の基本的な考え方
 - ・復旧・復興に向けた主要施策
 - ・地区別計画
 - ・計画の推進
 - ・復興計画策定に向けた今後のスケジュールについて
- 5 質疑・応答
下記のとおり
- 6 閉会

【配付資料】

- ・朝倉市復興計画（案）
- ・朝倉市復興計画（案）への意見募集のご案内

【質疑応答内容】

番号	質疑・要望	回答
1	6 ページに計画期間とあり、概ね 10 年後と記されているが、復旧工事に当たって、朝倉市の施工業者だけで行うものか、市外の業者を考えられているのか。	市の工事については、まずは地元の事業者には要請していく。入札を行い、結果によっては工事の在り方を考えていくが、対応してもらえない場合は、市外、近隣の業者になることも視野に入れている。 (総務部長)

2	水量が多いときに復旧工事をするのは困難だと思われるが、この概ね10年というのは、年間を通して事業を行った場合の10年なのか、水量が少ない時期に工事をして10年なのか。	出水期には河川の工事はしないところで考えている。 (災害復旧担当部長)
3	桂川、荷原川、新立川、妙見川の4河川は改良復旧というが、具体的には何をするのか。川幅を広げたり、堤防の高さを上げたりできるのか。	県からは、今回の雨でも水をあふれさせない工事をする示されている。手法については設計検討中で、地域ごとに違うため、決まり次第説明に伺う。 (復興計画調整官)
4	柿山の道路が通れない。工事が必要なところを早急に行政に見てもらいたい。	可能なところは対応しているが、応急復旧で対応できていないところもある。具体的な箇所についてご相談いただきたい。状況に応じて可能な対応をしていく。 (都市建設部長)
5	市は市、県は県と、縦割りでやられると困る。全体で説明していただきたい。	計画の中には、縦割りにしないように書いている。また、個別説明の際は、国・県などの管理者を中心に、市も入って話をしていく。全体の窓口は市になる。 (復興計画策定委員会委員長)
6	来年の出水期が心配なので、8ページにある地域防災力の向上は早急に行っていただきたい。具体的にはどのような対策を考えているのか。	出水期対策のプロジェクトチームを作って作業を進めている。ハード事業は間に合わない箇所もあるので、危険な箇所を抽出して避難場所や避難経路について考えている。区会長を通じて地域にも相談していく。 (副市長)
7	地区やコミュニティ単位で、具体的な防災計画を作ってもらいたい。	貴重なご意見として受け止める。今年の梅雨が最も危険だと認識しているので、5月までには河川の中の土砂を出来る限り取り除く。しかしそれは応急的な対応でしかないので、危険な地域は必ず避難するという考えで、避難を軸に検討していく。 (復興計画調整官)
8	市民は難しい話はわからないので、明確な言葉がほしい。	まだ詳細を示せない部分がある。決まり次第、地域と相談しながら進めていきたい。 (副市長)
9	36ページに「遊水地整備を含む」とある。この遊水地は何カ所か作る予定なのか。	遊水地と河川復旧を含めて、浸水家屋を無くす工事をしていくということは決

	また、新聞報道で遊水地のことが詳しく載っていたが、どこまで決まっているのか。	まっているが、設置場所や規模は決まっていない。県の検討作業が完了次第、地域にも伝えていく。 (復興計画調整官)
1 0	36 ページの矢印には「用地買収」とあるが、地域と折り合いがつかなければ計画期間が長くなるということか。折り合いをつけて計画期間内に完了させるために、単価を上げるなどにはあり得るのか。	事業期間が伸びることも考えられる。災害復旧は期間が決まっており、提案する行政側は一定の基準に基づいて金額を出していくので、基準から外れた額の提示は困難である。 (復興計画調整官)
1 1	流失した土砂はどこにどう使うつもりなのか。	処分場の確保が課題になっている。今後も各地で候補になりそうな用地確保を、地元とも相談しながら進めていく。 (都市建設部長)
1 2	仮設に入っているが、入居の際に少しトラブルがあった。行政間でもっとしっかり情報連携をしてほしい(要望)。	—
1 3	今後支援策等を検討する上で、商業関係の補償についてもきちんと考えてほしい(要望)。	—
1 4	復興計画案は具体性に欠ける。どこの地区が危険だから優先的に工事をしますといった話を聞きたい。	今日この時点においては、具体的にお示しできる部分を持ち合わせておらず、謹んでお詫び申し上げます。繰り返しになるが、出水期までには順次ご案内させていただく。 (副市長)
1 5	8 ページに防災計画の見直しとある。見直しを行う際、今回の水害を経験した地元のリーダーを参加させてほしい。縦割りの問題やボランティアの有効活用策等、朝倉市全体の共通課題には、防災計画の原案を作る段階から住民の声を取り入れてほしい。	市が作る防災計画は、地元の人が見てもよくわからないことが多い。それよりも、集落ごとに自分たちの手で地域の防災計画を作ることをお勧めする。これは専門家としてのアドバイスで、必要なら九州大学支援団も協力する。 (復興計画策定委員会委員長)
1 6	地域のコミュニティは朝倉には一か所しかない。集落ごとに防災計画を作ると言ってもそれぞれで事情が異なるので、市に旗振りをしてもらって、集落ごとの計画を作してほしい(要望)。	—
1 7	相談を受けた人がきちんと対応してくれるような横断的な体制を作してほしい(要望)。	—